

日 本 語

問 題

(2024)

〈R06180211〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜使用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 解答は特に指示がない限り日本語で記入すること。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
11. 字数制限がある設問については、算用数字やアルファベットその他の記号を用いる場合も、解答欄1マスに1つ記入すること。

以下の文章を読んで、問題1から問題5に答えなさい。

2010年代以降、「陰謀論」が世界各国の政治・社会を大きな混乱に陥れる時代となった。イギリスのブレグジットをめぐる住民投票、アメリカにおけるトランプ大統領の誕生、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、さらにはロシアによるウクライナ侵攻など、政治的・社会的に大きな変動が起きるたびに、荒唐無稽な陰謀論もまた数多く生まれ、社会を混乱の渦に巻き込んでいる。

たとえば、アメリカでは、新型コロナウイルスに対するワクチン接種がはじまってすぐより、「コロナワクチンには、実はマイクロチップが埋められている」とか、「コロナワクチンを接種したら、磁石が体にくっつくようになった」などといった陰謀論が、フェイスブックやティックトックなどのソーシャルメディアを通じて急速に広まった。こうした陰謀論に対しては、たとえば、アメリカの感染症対策を司る組織のひとつである米国疾病対策センター（CDC）が、「ワクチンに磁気を帯びた成分は一切含まれていない」と表明したり、あるいはワクチン管理を管轄する米食品医薬品局（FDA）が、ワクチン成分を公開してマイクロチップを埋め込む余地などないことがわかるよう公表したりするなど、国家レベルでの対応に追われる事態となっている。

一般的に言って、多くの人々は、仮にこのような陰謀論を見聞きしても、あまりにバカバカしい話だと一蹴することだろう。しかしながら、こうした「常識」が必ずしもすべての人に共有されていないことを示す調査結果もある。2020年5月20日～21日にかけて Yahoo!News の依頼を受けた大手調査会社 YouGov がアメリカの成人1640人を対象に実施した世論調査では、マイクロソフトの創業者で大富豪のひとりでもあるビル・ゲイツが、「COVID-19対策として進められているワクチンにマイクロチップを埋め込んで、人々の行動を捕捉しようとしている」というアメリカの一部で広まっている陰謀論（以下ではこの説を「マイクロチップ陰謀論」と呼ぶ）を信じるかについて尋ねたところ、共和党員の44%もの人が「その説は正しい」と回答しているのである。

このように、決して無視できない数のアメリカ人が「新型コロナのワクチンにはマイクロチップが埋められている可能性がある」と考えているという調査結果は、多くの人々がイメージする「常識」が本当に共有されているのかを疑ってしまう結果であろう。

陰謀論の多くは荒唐無稽な言説ではあるものの、しかし、それを信じる人もまた後を絶たない。では、そもそも「陰謀論」とはどのように定義することができるのだろうか。具体的な議論を始める前に、まずは、「陰謀論」とは何を指しているのかについて確認しておきたい。

デジタル大辞泉によれば、陰謀論とは「ある事件や出来事について、事実や一般に認められている説とは別に、策謀や謀略によるものであると解釈する考え方」とされる。一般的な陰謀論の定義としてはこれで十分のようにも思われるが、より厳密に分析するために、学術的にはさらに細かく定義されている。

まずは、陰謀論を形づくる「陰謀」から考えよう。先行研究によれば、「陰謀」とは「(政治的・社会的・経済的に)強い力を持つ2人以上のアクターによる秘密の企み」とされる。ここでの「アクター」とは、必ずしも個人に限るわけではなく、特定の組織・団体なども含んでいる。通常、どのようなパワー（権力）を持った個人であったとしても、すべての「企み」をたったひとりで達成することはできない。それゆえに、陰謀が指す主体が仮に個人を指す固有名詞であったとしても実質的に「関連する組織」を意味していると捉えられる。たとえば、前述のマイクロチップ陰謀論では、その主体をビル・ゲイツとしているが、実際には、彼の協力者や関係者、あるいは所属する団体—ビル・ゲイツ財団のような—を含んでいることは明白である。そして、学術研究における文脈での「陰謀」とは、国・地域・国際社会といった極めて広い範囲に影響を与えるような場合を指している。たとえば、2人以上の集団がコンビニ強盗を企んでいたとしても、そもそも

限られた狭い範囲にしか影響を与えない（または、大規模に社会を揺るがすような影響を与えようという意図がない）行為であり、ここでは「陰謀」と呼ばない。

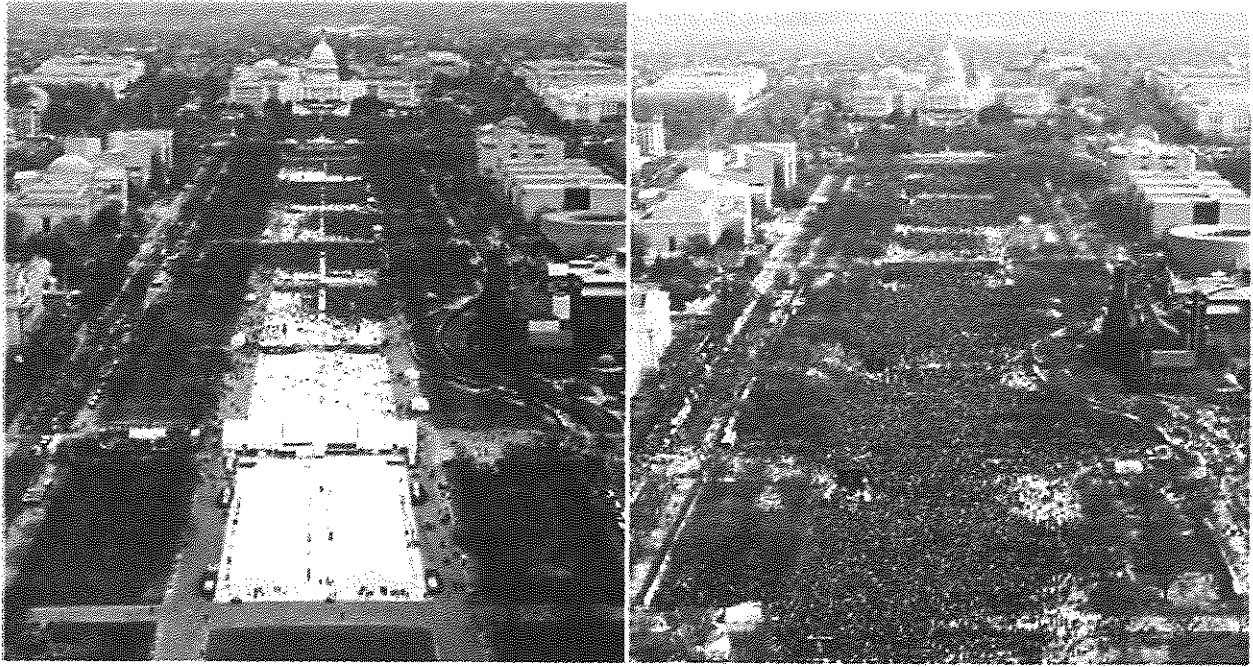
もっとも、こうした「陰謀」は、それ単体では単なる意図や考えに過ぎない。つまり、ある陰謀は、それが意図通りに忠実に実行されて、その結果、何らかの政治的・社会的に重要な出来事や事実の帰結として具現化されることまでを含んで「陰謀論」となる。もう少しフォーマルな言い方をすれば、陰謀論とは、「政治や社会において重大な事件・出来事が起きた究極的な原因を、強い影響力を持つ2人以上のアクターの秘密の企みで説明しようとする試み」ということになる。ただし、陰謀論の定義は画一的なものではなく、他にもさまざまなタイプのものがある。たとえば、政治学者のミハエル・バークンは、「陰謀論は、偶然に起きることはない・見かけ通りのことはない・すべては意図されているという特徴を持つ」と定義している。これらの議論も含め、差し当ってここでは、陰謀論を「重要な出来事の裏では、一般人には見えない力がうごめいている」と考える思考様式であると定義しておきたい。

また、以上の定義からもわかるように、陰謀論を考える上では「因果関係」が重要なキーとなる。マイクロチップ陰謀論の例では、「多くの人々がワクチンを接種している」という（社会的に重要な）帰結＝結果はすでに事実としてあり、その原因をどう考えるかが、陰謀論かそうでないかの分水嶺となる。一般的に言えば「多くの人々がワクチンを接種している」のは、「新型コロナウイルス感染症の発症および重症化を予防する」ためであって、それ以上でもそれ以下でもないだろう。しかし、マイクロチップ陰謀論を信じる人たちにとっての原因は、「ビル・ゲイツ（をとりまく集団）による、人々の行動把握のため」となる。もう少し突っ込んで言えば、陰謀論を信じる人たちにとって、「新型コロナウイルスの感染拡大を防止する」といった一般的な原因は、陰謀を企む強い力を持つ特定集団による「体の良い言い訳」に過ぎないとみなされることになる。

陰謀論は、ある重要な出来事の原因を、一般人には知り得ない強大な力に求める点にその特徴がある。とはいえ、多くの人にとって、陰謀論は、近年で言うところのフェイクニュースやデマ、あるいは、ロシアによるウクライナへの侵攻で話題となった（政府による）プロパガンダなどと同じく、単なる「偽の情報」だとみなされているかもしれない。ただし、陰謀論には、単なる「偽の情報」として片づけられない性質がある⁽¹⁾こともよく考える必要がある。

その情報が、単なるフェイクニュースなのか、それとも陰謀論なのかを弁別する決定的な違いは「検証可能性」にあると考えられる。たとえば、「フェイクニュースの代名詞」とも言われるようになった、アメリカ前大統領ドナルド・トランプ周辺の発言を事例に考えてみたい。2017年10月20日トランプの大統領就任式が行われた後、トランプや大統領報道官（当時）のショーン・スパイサーは、「間違いなく建国史上最多の聴衆が参加した」と発表している。しかしこの発表に対しては、多くのメディアから、事実と異なるとの指摘がなされた。その証拠として、前任のオバマの大統領就任式の空撮写真（2009年）と、トランプの大統領就任式の写真が示されている（図1）。ニューヨーク・タイムズ紙は、オバマのときの就任式参加者に比べて、トランプの就任式の参加者はおよそ3分の1程度であったと紹介している。無論、これはあくまで推定値でしかないのだが、少なくともトランプ政権の主張が「オーバー」であることは当該写真を見比べれば誰の目にも明らかである。このように、「証拠」（写真や公開されていた議事録など）を見れば、ある主張の真偽を（ある程度）判別することができるタイプの言説は、陰謀論ではなく、「フェイクニュース」だと言えるだろう。

図1 左：2017年トランプ就任式の様子 右：2009年オバマ就任式の様子



(写真：ロイター／アフロ)

もっとも、フェイクニュースにはこうした話題のように明確かつすぐにははっきりしないような言説もある。たとえば、日本でも昨今話題になった「新型コロナワクチンによる不妊説」はその好例である。ワクチン不妊説の発端は、そもそもコロナワクチン自体に反対していたとされるファイザー社の元役員マイケル・イードンが、2020年末ごろ、欧州医薬品庁（EMA）に提出した嘆願書にあるとされている。この嘆願書の中には、「ワクチンは不妊を起こす危険性がある」との記述があり、それを拡大して取り上げた一部のネット記事が、ソーシャルメディアを通じて世界中に拡散され、多くの一般人の目に留まることとなった。このワクチン不妊説の根拠について、バズフィードジャパンの記事では、以下のように報じられている。

「ワクチンはコロナのスパイクタンパク質に対する抗体を生成することが期待されているが、スパイクタンパク質は『シンシチン・ホモログ・タンパク質』を含んでおり、ヒトなど哺乳動物の胎盤形成に必須であるため、無期限に不妊症を起こす危険性がある。」

率直に言って、このような難解な専門用語が並べられ、「不妊症の危険がある」と結論づけられても、それを偽りの情報だと一般人が一目で見抜くことは難しいように思われる。また、だからこそ、専門家によるファクトチェックが必要であり、それがフェイクである理由を、一般人にもわかるような平易な言葉で説明する必要がある。実際に多くの専門家や学会などが、こうした説は明確に誤りであると指摘している。さらに、日本産婦人科感染症学会のウェブページには、ワクチン不妊説を否定するために、わかりやすいQ & Aまで用意している。あるいは、専門家のみならず、当時ワクチン担当相であった河野太郎も、自身のブログで、ワクチンが不妊を引き起こすという科学的な根拠はなく、アメリカで行われた3958人の妊婦を対象とした研究結果も引用しつつ、この説を明確に否定している。

言うまでもないことだが、陰謀論であってもフェイクニュースであっても、人々や社会を混乱させる情報である点で共通している。とくに、ワクチン不妊説のように我々の日常生活に関わる「リアル」なフェイクニュースであればなおさらである。ただし、フェイクニュースであれば、「事後的な検証」によって、その情報の精確さは（ある程度）示すことができる。それに対して、陰謀論は、専門家であれメディアであれ、それが陰謀なのかどうかを早期に検証して真偽を定かにすることが極めて難しい。その点が、フェイクニュ

ースと陰謀論で大きく異なる点だと言える。

そうした違いは、陰謀論の定義でも示したように、限られたごく一部の人のあいだでしか共有されない「秘密の企み」によって事象を説明するという、陰謀論の性質に由来する。つまり、ほとんどの場合、陰謀論が主張するような「秘密の企み」を持つ特定の人々にアクセスすることすらできない。あるいは仮に、ジャーナリストなどが、ある陰謀を主導しているとされる集団に取材することができたとしても、「秘密の企み」が真実であったと明かされることは決してないだろう。

トランプ前大統領の元顧問ケリーアン・コンウェイは、前述の大統領就任式に関する「フェイクニュース」について、客観的な事実とは異なる「もうひとつの事実」なのだというレトリックで正当化したことが世界中に報じられた。「もうひとつの事実」⁽²⁾とは具体的に何を意味するのかを問われたコンウェイは、「(世にあふれる情報は) グラスの半分が(事実で) 埋まっていますが、半分は空っぽの状態のようなものだ」と説明し、「この追加の事実によって、これまでとは異なる代替的な情報の全体像が見えてくる」のだと強弁した。これは極めて陰謀論的なレトリックであろう。多くのジャーナリストや団体はこうした説明や、考え方を激しく非難しているが、そうした見方をする者が一定数存在する限り、(あくまで社会認識のレベルにおいてであるが)「もうひとつの事実」が真実かどうかを超えて影響力を持つ可能性は否定できない。

陰謀論を唱える人を「陰謀論者」と呼ぶことがある。とりわけ、政治的な問題に関する陰謀論者と言えば、相当に極端な政治的な志向性を持っていて、自分が陰謀論を主張していると自覚すらしていない変わった人という印象があるかもしれない。しかし、中には、陰謀論を陰謀論と理解して発信している人も存在する。たとえば、アレックス・ジョーンズは、2001年アメリカ同時多発テロ事件に関し、事前にアメリカ政府はそのことを知っていてあえて見逃したなどの説を唱える、アメリカを代表する有名な陰謀論者のひとりである。彼は、文字通り「陰謀論者」であると認知された上で、テレビやラジオ番組に出演したり、自身のウェブサイトを経営したりしている。つまり陰謀論者の中には、いわばビジネスとして、陰謀論を自らの主張として展開している者もいるのである。

また、陰謀論は、ソーシャルメディアをはじめとしたインターネットサイトを介して蔓延しているとも言われる。そうした背景としてしばしば指摘されるのが、経済的な動機にもとづく陰謀論サイトの運営である。もちろん、自身の信念にもとづいて陰謀論を発信しているサイト運営者(たち)も存在するが、同時に、アフィリエイトと呼ばれる広告収入を得ることを目的としている場合も少なくない。つまり、サイトにアクセスする人が多ければ多いほど、自身のサイトに設置した広告収入(アフィリエイト)の増加につながる。アクセス数が多いほど収入が増えるという収益構造のために、陰謀論サイトの運営者は、そこで伝える情報や内容を、より過激に、そしてより信じやすい形で提供するインセンティブが働く。NHKディレクターである佐野広記のレポートによれば、マケドニア共和国の地方都市ヴェレスは「フェイクニュース工場」の異名をとるとされ、200~300人の若者が偽情報の記事を作り出してはフェイスブックのシェア機能を使って拡散し、多いときには月60万円ほどの広告収入を得る者もいることが報告されている。これらの例は、「信念」ではなく純粋な「金銭目的」が、フェイクニュースと陰謀論の概念的な違いを超えて、広く「事実とは異なる情報」を発信する動機になりうることを示している。

ただしそう考えると、陰謀論サイトの情報を信じて陰謀論者になってしまったユーザー(二次的陰謀論者)は、サイト運営者の「カモ」になった被害者という側面もある。陰謀論のネットワークは、ある陰謀論者が陰謀論を吹聴して、それを信じてしまった人がさらに陰謀論者となって……という形で、クモの巣のように拡大を続ける。この点で言えば、陰謀論サイト運営者も二次的陰謀論者もその立場は等しく、二次的陰謀論者が、今度はさらに三次的・四次的陰謀論を生み出すという形で、陰謀論の生産者側に回ることになる。こうしたネットワークの中で、もともとの陰謀論から尾ひれがついたり、より人々に受容されやすいように

変化しながら、拡大再生産を繰り返していく。もっとも、このことは裏返せば、仮にどこかの場所で陰謀論が現れても、それを信じるユーザー（ n 次的な陰謀論者）が存在しなくなれば、陰謀論の拡散はそこでストップすることを意味している。

先ほども指摘したように、「陰謀論者」には、政治的動機を持つ場合だけでなく、経済的な動機を持つ場合もある。これらは「陰謀論者」という側面では同様であるものの、「陰謀論を信じるかどうか」について考える上では、この2つの動機の違いは明確に弁別して考える必要がある。

経済的動機にもとづいて陰謀論を主張する者は、政治的動機によって陰謀論を主張する者よりも「悪質」なようにも思われるが、その個人（ないし集団）は、あくまで陰謀論と一定の距離を置いている場合も多いと考えられる。他方で、政治的な動機にもとづいて陰謀論を唱えている者は、思想信条が社会的・人間関係的な問題と結びついていることが多く、より深刻で、しかも解決が難しい。なぜなら、政治的な動機による陰謀論者は、それを「陰謀論」であるとは考えず、自らの信念や態度を形成する決定的な材料とみなす可能性が高いからである。実際に、陰謀論が社会的問題として議論される際の主な対象となるのは、後者と思われる。

そう考えると、上記を混同して、当の陰謀論を主張する人を十把一絡げに陰謀論を信じる人とみなす見方は、必ずしも正確ではない点で注意が必要である。一口に陰謀論者と言っても、その「陰謀論」をどれほど内面化しているかは動機によって異なる。

陰謀論を自らの考え方として心理的に内面化している度合いのことを、学術的には「陰謀論的信念」と呼ぶ。たとえば、2021年4月にCNNの委託を受けて実施された世論調査では、「バイデンは、合法的な得票で選挙に勝利したわけではない」という意見に同意する人が3割にのぼった。この場合、アメリカ人の3割は、「バイデンは違法な方法で大統領になった」という陰謀論的信念を有していると解釈することができるだろう。

陰謀論に関する研究では、しばしば、ある陰謀論を信じている人は、まったく別の種類の陰謀論をも信じる傾向にあると指摘される。つまり、ある陰謀論を信じるかどうかは、特定の陰謀論に対する同意や支持を超えて、その人が潜在的に有している「陰謀論的なモノの見方」の結果として生じるものだと考えられるのである。こうした抽象的な意味での「陰謀論的なモノの見方」、言い換えれば、陰謀論の定義で示したような「一部の力を持つ人々の秘密の企み」が実際の社会や政治の場面で本当に発生していると思う（信じる）ことができるかどうかは、「陰謀論的思考」ないし「陰謀論的マインドセット」といった概念で説明される。

つぎに、日本に住む人々のあいだで、どのくらいの人がこの「陰謀論的思考」を有しているのかについて、筆者が実施したアンケート調査のデータを使って確認してみたい。ここで用いるデータは、2021年8月14日から17日にかけて、楽天インサイトのパネルモニター（全国の男女18歳以上）2001名を対象に行ったアンケート調査の結果である。なお、このアンケート調査の対象者は、性別・年齢・地域を国勢調査に合わせる形で調整し、いわば日本の縮図となるように設定している。

さて、この調査では、国内外の先行研究において「陰謀論的思考」の概念を測定する際に用いられる尺度を使って、15の質問を行っている（このような手順を「操作化」と呼ぶ）。具体的な質問内容は、以下の通りである。

【質問文】

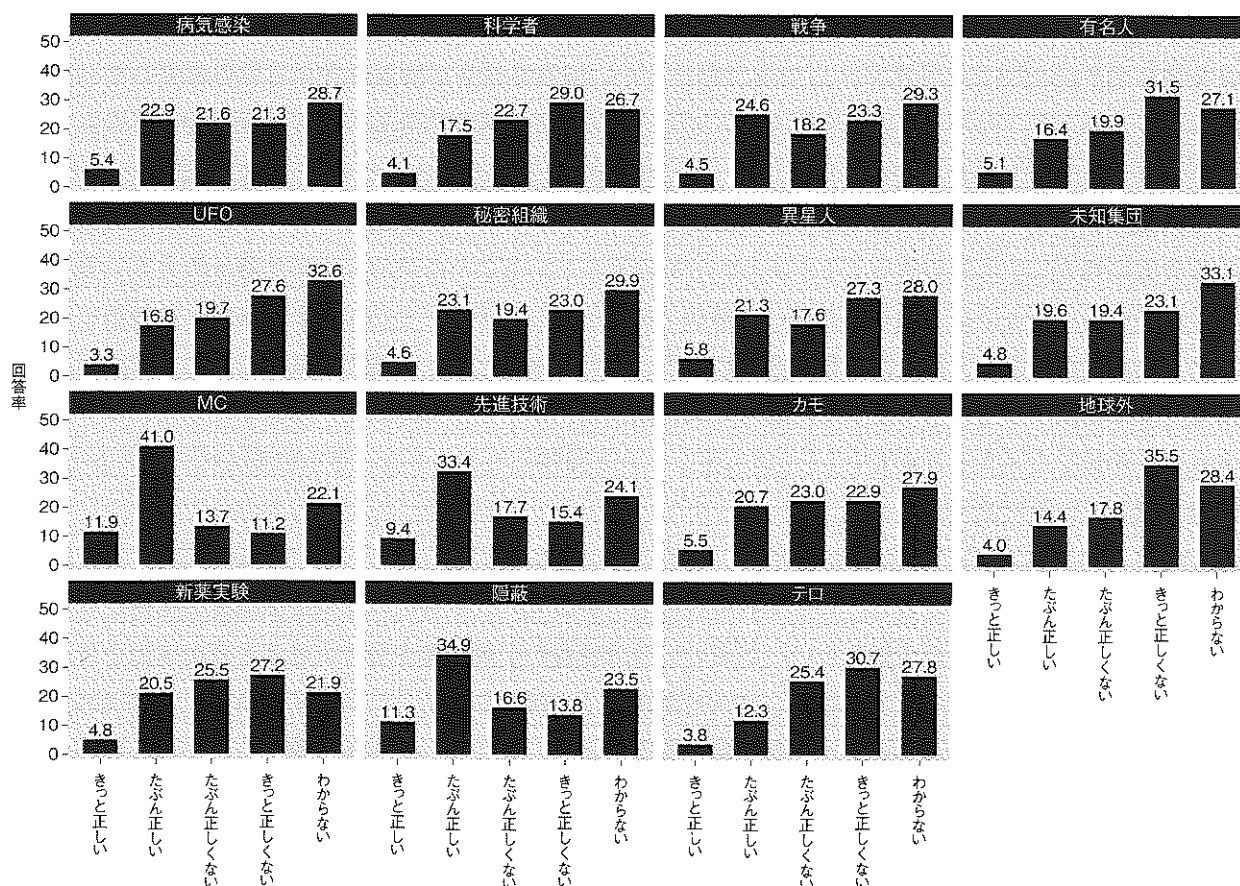
さまざまな重要な問題に関する「真実」すべてを国民一般が知らされているかどうかについて、しばしば論争になります。以下に示すそれぞれの内容について、あなた自身は、どの程度正しいと信じられますか。あなたのお気持ちに最も近い選択肢を1つずつお選びください。

●政府は、罪もない市民やよく知られた有名人の殺害に関与し、そのことを秘密にしている。（有名人）

- 国家権力は、世界を実際に支配している小規模で未知の集団が持つ権力にはかなわない。(未知集団)
 - 秘密組織が地球外生命体とコンタクトをとっているが、その事実は大衆には伏せられている。(地球外)
 - ある種の病原体や病気の感染拡大は、ある組織による慎重かつ秘匿された活動の結果である。(病気感染)
 - 科学者の集団が、大衆を欺くために証拠を操作・ねつ造・隠蔽している。(科学者)
 - 小規模の秘密の集団が、戦争の開始といった世界の重要な意思決定に関わっている。(戦争)
 - 未確認飛行物体の目撃情報やうわさの中には、実際の異星人との接触から注意を逸らすために計画的に作られたり、仕組まれたものがある。(UFO)
 - いくつかの重大な出来事は、秘密裏に世界を操っている小集団の活動の結果である。(秘密組織)
 - 異星人からの接触の証拠は、一般市民には伏せられている。(異星人)
 - マインドコントロールを可能にする技術は、人知れず使われている。(MC)
 - 現在の産業に不都合な先進技術は隠されている。(先進技術)
 - 政府は犯罪行為への関与を隠すために、一般人をカモにしている。(カモ)
 - 新しい薬や技術の実験は、市民に知らされることなく、また同意を得ることなしに、日常的に私たちに対して行われている。(新薬実験)
 - 多くの重要な情報は、私利私欲のために市民から慎重に隠蔽されている。(隠蔽)
 - 日本政府は、日本に対するテロ行為を容認あるいは関与し、関与を偽装している。(テロ)
- 《選択肢》「答えたくない」は分析上、割愛している
- きっと正しい／たぶん正しい／たぶん正しくない／きっと正しくない／わからない

図2は、以上15の質問それぞれの回答結果を示したものである。

図2 日本人の陰謀論的思考の割合



これを見ると、日本人の陰謀論的信念の様態に関するいくつかの特徴が浮かび上がる。むろん、どの話題を取り上げるかで「正しい」と考える割合（率）は多少異なるが、全体的に見て日本人でも、およそ20～40%の人が、ここで取り上げた陰謀論的言説を、「きっと正しい」もしくは「たぶん正しい」と回答していることがわかる。

もう少し個別に見てみよう。たとえば、コロナ禍においてはかなり身近な話題だと思われる「ある種の病原体や病気の感染拡大は、ある組織による慎重かつ秘匿された活動の結果である」（病気感染）という意見に対しては、「きっと正しい」が約5%、「たぶん正しい」が約23%と、合計しておよそ3割程度の人々が信じているようである。あるいは、それに近い陰謀論として「新しい薬や技術の実験は、市民に知られることなく、また同意を得ることなしに、日常的に私たちに対して行われている」（新薬実験）でも、「きっと正しい」が約5%、「たぶん正しい」が約20%、あわせて25%程度の人々が、一般人が秘密裏に（新薬を含む）新たな技術開発の実験台に利用されているかもしれないと考えている。

あるいは、より広くSF的に語られるような話題として、異星人の存在の証拠が隠されているかもしれないと考える人は、およそ27%にのぼる。加えて、いわゆる都市伝説でよく聞かれる「秘密結社」のような、国家権力を超越する隠された秘匿組織の存在（未知集団）を認め、そうした闇の組織が社会に重大な影響力を持っている（秘密組織）と考える人はそれぞれ約24%、約28%、さらにそうした組織が地球外生命体とコンタクトをとっている（地球外）と考える人も約18%にのぼる。

もちろん、回答の割合（%）だけにもとづいて多いのか少ないのかを判断しようとしても、それはあくまで主観的判断の域を出ない。それゆえに、「こんな荒唐無稽な意見を正しいと思う日本人が3割近くもいるのか」と思う人もいれば、「たった3割程度しかいないのか」と感じる人もいるだろう。

その上で、見かけ上の結果よりも重要なことがある。それは、図に示したほとんどの質問で、「わからない」と回答している人が2～3割を占めているという事実である。もちろん、より慎重に判断した結果、真偽不明であると考えて「わからない」と回答した人もいるだろう。しかし、一部にはそれらの意見が正しいような気はするが、「きっと正しい」と答えてしまうと、回答者自身が陰謀論者だと見られてしまう可能性を懸念して、あえて「わからない」を選んだ人も含まれていると考えられる。とくに後者のような回答は、社会調査（アンケート調査）では、しばしば「社会的期待迎合バイアス」とか「社会的望ましきバイアス」⁽⁴⁾と呼ばれている。この社会的望ましきバイアスは、多くの人にとって答えにくいセンシティブな質問内容とか、社会的に望ましいと思われることがあらかじめ決まっているような内容について尋ねたときに発生すると言われている。たとえば、選挙のたびに「選挙で投票しましたか？」と尋ねると、実際には投票に行っていない（棄権した）人も、社会的な体裁を気にして、つい「投票した」と嘘の回答をしてしまうために、世論調査上では実際よりも投票率が高く見積もられる傾向にあることが知られている。こうしたバイアスも考慮すれば、先述した「きっと正しい」「たぶん正しい」と回答した人よりも、さらに多くの人々が「本心では」陰謀論を信じている可能性がある。

以上の結果からも、「この日本で陰謀論なんて信じているのは、ごくごく一部の特殊な人だ」とは簡単に言い切れないことがわかるだろう。いやそれどころか、日本人の3～5人に1人が陰謀論的信念を有しているとすれば、誰しも身近な知り合い（あるいは自分自身）が陰謀論を受け入れる心理的素地を持っていると考えるほうが適切であろう。ある日、友人や家族が「実は、ワクチンにはマイクロチップが埋め込まれているので接種しないほうがいい」と真剣な顔で訴えてきたとしても、何ら不思議なことではないのである。もちろん、陰謀論的信念を持つ者の中には、そういった考えを一切表には出さずに日常生活を送っている人も少なくないだろう。ただし、コロナ禍が明らかにしたように、ひとたび社会に混乱や大きな不安が生まれたとき、陰謀論的信念という潜在的な「種」が芽を出すことがある。実際に、ソーシャルメディア上では、

それまで政治や医療にさほど関心を持っていなかったと思われる一般人が陰謀論を開陳し、さらには、友人や知人の制止を振り切って「炎上」する様子がたびたび見られる。

とくに2020年のアメリカ大統領選挙では、急速に広まったQアノン陰謀論の信奉者たちが、家族やそれまでの知り合いとの関係を絶たれて孤立化する様子が各種のメディアでしばしば報じられた。NHKが2021年4月10日に放送した「パンデミック 揺れる民主主義 ジェニファーは議事堂へ向かった」では、Qアノンを信じた男性が、娘や友人の諫めを聞かず、むしろQアノンの信奉者たちと付き合うようになり、それまでのネットワークから孤立していく様子が克明に描かれている。Qアノン陰謀論では、アメリカは「ディープステート」と呼ばれる闇の組織に支配されており、トランプはそれと戦う英雄であると位置づけられている。つまり、Qアノンを信じる人にとって、トランプを批判する友人に「真実」を伝え、トランプ支持を訴えることは「アメリカのため」ということになる。そんな陰謀論を伝えられた友人にとっては、その人と距離をとりたいと考えるのは自然なことであるし、そうした連鎖の中で、ますます友人を失い、社会的に孤立していくことになる。陰謀論は、単にその人の評判を低下させるだけでなく、友人や家族といった身近な人々との関係をも奪ってしまう可能性のある、実に厄介な存在なのである。

(秦正樹『陰謀論—民主主義を揺るがすメカニズム—』、中公新書、2022年より、一部修正したうえで引用。)

問題1 著者は下線部(1)において、陰謀論は単なる「偽の情報」として片づけられない性質があると述べている。なぜそう考えられるのか、本文の論旨に即して、200字以内で説明しなさい。

問題2 【図1】は、トランプ前大統領の就任式に史上最多の聴衆が集まった、とする主張をフェイクニュースと判断する根拠となった写真である。この判断をケリーアン・コンウェイは、下線部(2)の「もうひとつの事実」という自説により否定し、本文の著者はその説を「極めて陰謀論的」としている。「もうひとつの事実」説によって、フェイクニュースという判断がどのように覆されるのか、それが陰謀論であることを前提として100字以内で説明しなさい。

問題 3 本文には、実際に著者が行った日本人の「陰謀論的思考」を測るためのアンケート調査が説明されている。この調査をもっと簡略化した調査として、陰謀論Aと陰謀論Bに対して、信じているか、信じていないかの二者択一のアンケート調査を、無作為に選んだ1000人を対象に行ったとしよう（ただし、1000人全員が、信じているか、信じていないかのどちらかを回答したとする）。その結果が以下のような表にまとめられた。例えば、「陰謀論Aを信じている」、かつ、「陰謀論Bを信じている」と回答した人の数は280人である。以下の括弧に適切な数字を入れなさい。

		陰謀論 A		
		信じている	信じていない	合計
陰謀論 B	信じている	280	120	400
	信じていない	420	180	600
	合計	700	300	1000

- この1000人の中で、陰謀論Aを信じているが、陰謀論Bを信じていない人は全体の（ 1 ） % である。
- 陰謀論Aを信じている人の中で、陰謀論Bを信じていない人の割合は（ 2 ） % である。
- 1000人の中で、陰謀論Bを信じていない人の割合は（ 3 ） % である。

このアンケートの結果からわかることとして、最も適切なものを次の4つから選び、解答欄4にその数字を入れなさい。

1. 「陰謀論Aを信じていることは、陰謀論Bを信じていないことと独立である」と考えられる。
2. 「陰謀論Aを信じていることは、陰謀論Bを信じていないことと独立ではない」と考えられる。
3. 「陰謀論Aを信じていることと陰謀論Bを信じていることが独立であるかどうか」を判断することはできない。
4. 「陰謀論Aを信じていないことが陰謀論Bを信じていないことと独立であるかどうか」を判断することはできない。

問題 4 下線部(3)に関連して、著者は経済的な動機に基づく陰謀論者よりも、政治的な動機に基づく陰謀論者の方が、より深刻で解決が難しいと述べているが、その理由は何か。150字以内で説明しなさい。

問題 5 【図2】から、下線部(4)の「社会的期待迎合バイアス」が高いと思われる回答を1つ選び、その理由をどのような社会的期待が存在すると考えられるかを含めて、100字以内で述べなさい。

〔以 下 余 白〕

注意事項

1. 受験番号および氏名を、解答用紙の所定の欄に必ず記入すること。所定の欄以外には、受験番号および氏名を書いてはならない。
2. 解答は特に指示がない限り横書きで記入すること。解答欄以外には何も書いてはならない。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。

--

(この欄に書き入れてはならない。)

10

20

25

[illegible]

10

20

25

[illegible]

1

%

2

%

3)

--	--

%

4

--

(注意) 所定の欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

日本語
解答用紙②

注意事項

1. 受験番号および氏名を、解答用紙の所定の欄に必ず記入すること。所定の欄以外には、受験番号および氏名を書いてはならない。
2. 解答は特に指示がない限り横書きで記入すること。解答欄以外には何も書いてはならない。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。

4. 解答は特に指示がない限り日本語で記入すること。
5. 字数制限がある設問については、算用数字やアルファベットその他の記号を用いる場合も、解答欄1マスに1つ記入すること。

(この欄に書き入れてはならない。)

問題 4

10

20

25

[illegible]

100

150

問題 5

10

20

25

[illegible]

100